

# 雑木林通信 2021. 5. 30 161号

## こんちゅう たい 子ども昆虫みつけ隊

雑木林での子どもたちのようすは様々ですが、探し物に夢中になっている子に「なに見つけたの?」とたずねると「これ!」と手の中に持っているものを見せてくれます。それは四季折々のものですが、木の実、鳥の羽、セミの抜け殻、落ちていた昆虫やその破片などさまざまです。

虫とり、虫さがしは、子ども時代の“文化”とも呼べるように思うのですが、「見つけたい」思いは好奇心を育て、知的な関心につながり、終生消えることのない自然体験の記憶を残します。

今回は虫好きの子どもたちのようすを紹介します。



ケースの中には、小さく育ち始めたばかりのバッタたち。カタツムリもいます。「バッタのごはん」と言っていたのですが、ヨモギの葉も入っていました。たくさんとれ満足してるようでした。近くにいた子が「すごい、いっぱい!」

と見ていました。別の子が「ショウリョウバッタとトノサマバッタがいるじゃん」と話しています。つまえた子は「うん」とうなずきつつも、どちらがどれか、ちょっとわからない様子でした。



ある時、高学年の子が枯れ木をわって持ってきました。簡単にわれたよ、と言って中にいたカミキリムシの幼虫を見せてくれました。写真では小さくわかりにくいのですが、白く丸まっているのが幼虫です。枯れ木を食べてサナギとなるのですが、トンネルのようになった食跡

を見せて説明してくれました。高学年ともなると昆虫の生態へも関心を広げ、

**虫たちが生きる環境、ほかの生き物とのかかわりにも視野を広げていきます。**

**ハンモック近くのクヌギの木の根元を  
ほっていたら見つけたというコクワガタ  
のサナギのぬけガウです。**

**カブトムシを育てたことのある子が見  
つけたのですが、めずらしいものでした。**

**これを見つけたのは、5年の女子で虫  
が好きなので将来、昆虫のこと勉強した  
いと話す子でした。**



これから夏に向かったの雑木林には、セミやバッタ、ヘビの抜け殻を拾うことがあります。

とくに、セミは、アブラゼミ、ニイゼミ、ミンミンゼミなどの種類によって抜け殻が違います。とくにハンモックのあるあたりは、毎年、セミの抜け殻が多く見つかる所です。



**ある年の秋、4年生の子たちが、雑  
木林で見つけて来た6匹の死んだカブ  
トムシ。何本かのクヌギの木のまわり  
を見ていたら落ちていたとのこと。お  
そらく交尾産卵を終え、死んでいった  
のでしょう。引き継がれる命のありよ  
うを見せてくれます。**

**子どもの手にのっているのは、タマ  
ムシです。雑木林にはタマムシの食樹  
のエノキがありタマムシが繁殖します。**

**毎年、林の中でタマムシをひろう子  
がいて、その子らは美しい宝物を拾え、  
うれしそうな笑顔をしていました。**



虫との出会いが楽しみな季節、雑木林の子ども昆虫みつけ隊が動き回る季節となりますね。